

## 「ともだちは海のおい」

工藤 直子／著

理論社

1984年 6月発行

1階児童開架図書 (請求記号: 913-外)

一度読んだ本を二度、三度と読むことはめったにない。ところが、この本は、私にとってのビタミン剤のようなもので、何度読んでも楽しい。

「ひとはみな 心のなかに 海をひとつ もっている」という始まりの言葉から、心地よい響きがある。

「さびしいくらいしずかだと、コドクがすきなぼくでも、だれかとお茶を飲みたくなる」いるかと「さびしいくらいしずかだと、コドクがすきなぼくでも、だれかとビールを飲みたくなる」くじらのおだやかな日々。

さいごまで、お互いの心の中に、お互いがいる望ましい関係。永久不滅の友情とはこのことか。あなたも、きっとこんなともだちがほしくなる。

## 「縞模様のパジャマの少年 The Boy in the Striped Pyjamas」

ジョン・ボイン／作 千葉 茂樹／訳

岩波書店

2008年9月発行

1階児童開架図書 (請求記号: 93/ホイ)

第二次世界大戦下のベルリンで暮らす軍人一家の9歳になる息子ブルーノは、ある日、父親が ” ソートーさま ” から新たに命じられたある ” 任務 ” のため、家族ぐるみで見知らぬ土地に引っ越すことになった。新しい家の窓から見えるのは、フェンスで囲まれた荒涼とした土地と縞模様の ” パジャマ ” を着た大勢の人間だけだった。

物語の進行と共に、読者は父親の ” 任務 ” が何なのかに気づくでしょう。そして、フェンスの中の縞模様の ” パジャマ ” を着た人々を待ち受ける悲劇は私たちにとって周知の事実なのです。しかし、ブルーノ少年は、優しい父親が持つ一つの顔を知るよしもなく、そして自らがたどる驚くべき運命さえも・・・。

この作品は、2006年に発表されて以来、30カ国以上で翻訳されベストセラーとなり、児童書に分類されるにも関わらず2008年12月イギリス小説部門で第7位にランキングされました。昨年9月に映画化されました。